

三原城を訪れた「戦国の世を動かした」武将達

【その-1】 毛利輝元

輝元は、天正5年（1577）、石山合戦に備えるため隆景が笠岡に陣を置いた際には、本営を三原城としている。

【その-2】 豊臣秀吉

秀吉は、本丸御殿に2回宿泊している。

1回目は、天正15年（1587）、九州の島津氏を制圧するための道中、2泊している。

2回目は、文禄元年（1592）、朝鮮を侵略したとき、肥前名護屋への往復の時、宿泊している。

【その-3】 徳川家康

家康は、文禄元年（1592）、九州・名護屋城に居た秀吉の陣中見舞いに赴く途中に三原城に立ち寄ってはいるが城内には宿泊していない。

宿泊は、初め宗光寺（当時は匡真寺）へ泊まる予定だったが三原城が眼下に見えるので、恐れ多いとして、下側の一株院へ泊まったとある。

（現在・一株院は廃寺になっている）

【その-4】 小早川秀秋の結婚式

小早川家18代当主秀秋（豊臣秀吉の甥）

結婚式は、三原城に於いて、文禄3年（1594）

18日、毛利輝元養女・古満姫と祝言を挙げた。

小早川家、毛利家の大名衆が臨席し、数日間に亘ってお鷹狩りや舟遊び等に興じたとある。

（小早川家文書・小早川秀秋三原下向祝言日記）

国指定史跡・新高山城跡・高山城跡



国指定史跡・三原城の優美な天守台



江戸後期の三原城 瀬戸内の海に浮かぶ名城



戦国時代の智将

小早川隆景の戦歴

KOBAYAKAWA-TAKAKAGE - SENNREKI



木造・隆景像 米山寺蔵

沼田小早川・17代当主を継いだ小早川隆景は、永禄10年（1567）三原湾に海城を築き以後、この城を本拠地として、内海を支配し生涯を毛利の盾に徹して雄々しく戦い、名将知将と賞賛され、官位・権中納言を賜った隆景生涯の戦歴を綴ってみた。

【参考資料一覧】

- ① 著作家 栗栖 孝氏
小早川隆景（活劇絵本）
- ② 郷土史家 橋本 敬一氏
講演資料（小早川隆景公について）
- ③ 東廬山米山寺所蔵・木像写真

三原市 本郷町観光協会
平成29年3月発行



ガイド案内連絡先
三原市本郷南5丁目26-11
Tel. 0848-86-5717
9時～12時・平日



小早川隆景
生涯65年・戦歴綴り

| 和暦 | 西暦 | 年齢 | 種別 | 綴り | その他・出来事 |
|-----|------|----|----|--|-------------------------|
| 天文2 | 1533 | 1 | 注釈 | 吉田郡山城で毛利元就の三男として生まれる。幼名・隆孝丸 | ○1533(天文2)年 |
| 10 | 1541 | 9 | 注釈 | 竹原小早川家の当主・興景が病没。隆景擁立の声が上がる | 大内氏、高山城占拠 |
| 13 | 1544 | 12 | 注釈 | 竹原小早川家の家督を継承 | ○1543(天文12)年 |
| 14 | 1545 | 13 | 注釈 | 母・妙玖、死去 | ポルトガル人、種子島に漂着。鉄砲伝来 |
| 15 | 1546 | 14 | 注釈 | 父・元就、隠居。毛利家の家督は長兄・隆元が継承 | |
| 16 | 1547 | 15 | 合戦 | 備後龍玉山で尼子氏の山名理興勢と戦い、初陣を果す | |
| | | | 注釈 | この年、長兄・元就が吉川家の家督を継承 | ○1549(天文18)年 |
| 19 | 1550 | | | | ザビエル、キリスト教を伝える |
| 20 | 1551 | 19 | 注釈 | 沼田小早川家の家督を継承する | |
| 21 | 1552 | 20 | | 高山城に入城 新高山城を築城 | |
| 22 | 1553 | 21 | 注釈 | 隆元の嫡男・輝元、誕生 | |
| 23 | 1554 | 22 | 合戦 | 11月、陶晴賢と通じる備後の「宇賀崎」を攻略 | |
| 弘治1 | 1555 | 23 | 合戦 | 10月1日、厳島合戦。毛利軍、陶家に勝利。陶晴賢を自刃に追い込む | |
| | | | 注釈 | 4月、大内勢兵を攻撃。勢兵を自刃に追い込み、大内氏滅亡 | ○1560(永禄3)年 |
| | | | 注釈 | 11月、元就より三木の尖の戦利状を受ける | 備前川の戦い |
| 永禄4 | 1561 | 29 | 注釈 | 元就と隆元を新高山に招き、歡待 | ●1561(永禄4)年 |
| 5 | 1562 | 30 | 注釈 | 隆元、備中・備後の守護に任せられる | 毛利元就・隆元父子 新高山城に隆景を訪問 |
| 6 | 1563 | 31 | 注釈 | 隆元、死去(享年41才)。輝元が毛利家の家督を継承 | |
| 9 | 1566 | 34 | 合戦 | 尼子氏の本拠・月山富田城を陥とす | |
| 11 | 1568 | 36 | 合戦 | 元孝とともに九州出陣。以後、大友家と抗争を繰り返す | ●1567(永禄10)年 |
| 元龜1 | 1570 | 38 | 注釈 | 澁田信長より書状を受ける。以後、澁田家との交渉の窓口となる | 隆景三原城を築く |
| | | | 注釈 | 6月、元就、吉田郡山城で死去(享年75歳) | ○1570(元龜1)年 |
| | | | 注釈 | 12月、支園寺遺蹟、澁田信長に拝謁。信長、隆景に扇を贈る | 石山寺合戦始まる |
| 天正4 | 1576 | 44 | 合戦 | 第1次木津川合戦・勝利 毛利水軍、木津川河口で澁田軍を撃破し、石山本願寺に兵糧を入れる | ○1575(天正1)年 |
| | | | 合戦 | 7月、尼子方が拠る上月城を攻略。尼子勝久、自刃 | ○1576(天正4)年 |
| | | | 合戦 | 第2次木津川合戦・敗北 11月、木津川河口で再び澁田軍と激突 | 信長、安土城を築く |
| | | | 合戦 | 1月、備中高松城主の清水宗治らに呼び、澁田方との合戦に勝つための作戦を協議 | |
| | | | 注釈 | 5月7日、備中高松城、羽柴秀吉軍に包囲される(高松城水攻) | ○1583(天正11)年 |
| | | | 注釈 | 6月2日、本願寺の裏。澁田信長、横死 | 羽柴秀吉、大阪城築城 |
| | | | 注釈 | 6月4日、秀吉と謀和。高松城主・清水宗治、切腹 | |
| | | | 注釈 | 6月6日、本願寺の裏の報せを受けた吉川元孝ら、秀吉の追撃を主張。隆景、これを制止 | |
| 11 | 1583 | 51 | 注釈 | 吉川隆彦(本家)と小早川元隆(秀吉)を秀吉への人質に出す | ○1584(天正12)年 |
| 12 | 1584 | 52 | 注釈 | 秀吉との謀和がほぼ整う | イスパニヤ人來航 |
| | | | 合戦 | 秀吉の韓軍攻め(3月)、四国攻め(5月~8月)に従う | |
| | | | 注釈 | 12月、秀吉より、伊予を拝領(播磨城25万石) | ○1585(天正13)年 |
| | | | 注釈 | 8月、秀吉より大坂城に招待され、歡待を受ける | 秀吉、四国平定 |
| | | | 合戦 | 7月、秀吉の九州攻めに従う | 關白となる |
| | | | 注釈 | 11月、元孝、豊前小倉の陣中で死去(享年57歳)。 広家が吉川家の家督を継承 | ○1586(天正14)年 |
| | | | 注釈 | 秀吉より、筑前・筑後、肥前一部を与えられる(36万石) | 秀吉・豊臣の姓となる |
| | | | 注釈 | 筑前名島城の築城を開始 | ●1587(天正15)年 |
| | | | 注釈 | 隆景、筑前へ移封 | |
| | | | 合戦 | 秀吉の北条攻めの際、清川城在番を務める | ○1587(天正15)年 |
| | | | 合戦 | 朝鮮へ出陣(天正の役) | 秀吉、パテロン追放 |
| | | | 合戦 | 秀吉の命を受けて、朝鮮へ出陣 | ○1591(天正19)年 |
| | | | 合戦 | 1月、碧蹄館の戦い、明・朝鮮軍の大軍を破る | 毛利、広島城完成 |
| | | | 合戦 | 閏9月、輝元とともに原田 | ●1593(天正2)年 |
| | | | 注釈 | 秀吉の妻・秀俊(秀秋)を養子に迎え、嫡男とする | 秀秋三原城に隠れ |
| | | | 注釈 | 8月、備三位叙せられ、權中納言に任せられる(五大老) | ●1597(慶長2)年 |
| | | | 注釈 | 11月、秀秋に家督を譲り、隠居所の備後三原城に入る | 隆景没。隆景は毛利氏庶嫡となる |
| 慶長2 | 1597 | 65 | 終焉 | 三原城内で死去。東盧山米山寺に葬られる | |

初陣

栗栖 孝氏 著書「小早川隆景」引用



① 隆景15歳、天文16年(1547)備後・神辺城の支城・竜王山砦で、山名理興勢との戦いの出陣前に従姉であり嫡母となる多津が配下の武将達に「隆景の出陣に、忠告を届ける子」と言って後ろ盾をした。



② 隆景は、竹原木村城より陸路と海路より兵數およそ千三百で進撃し気丈な配役に加陣を勝利した。

③ 隆景は、占領地で住民達に、船の浦から船を、松永からは荷駄にて多量の兵糧や鮮魚を運ばせ、駐屯地のある村々にまで分配した。まことに、小早川軍は住民から、神の軍と呼ばれるほどになった。

隆景履歴

- ① 徳寿丸は、天文13年(1544)12歳で、竹原小早川当主・隆景となる。
*西国の雄・大内義隆から「隆」の一字を賜ったとある。
- ② 隆景は、天文19年(1550)18歳で、沼田小早川16代当主・繁平の妹満州(ます)と結婚して、17代当主となり、竹原小早川家を統合した。
- ③ 隆景は、天文21年(1552)20歳の時、沼田川を挟んだ対岸に新高山城を築城し、新たな本拠地とした。45年間に亘る隆景一代の名城となる。
- ④ 隆景は、永禄10年(1567)35歳の時、前進基地として三原の海辺に城を築く。以後、小早川水軍を率いて数々の合戦で活躍することとなった。

主な合戦

① 厳島の合戦 栗栖 孝氏 著書「小早川隆景」引用



隆景23歳の時、弘治元年(1555)10月1日の早朝、厳島の合戦が始まる。小早川水軍100隻、村上水軍300隻。毛利軍の本隊3,000名は山越えして背後より陶軍を襲う。陶軍の水軍600隻を含む20,000の兵力だったが、毛利軍の策略が勝り同日2時頃には陶軍2万は完全に壊滅となり毛利の大勝利となった。

- ② 澁田信長との戦い その一
隆景44歳の時、天正2年(1576)毛利領内の「朝川」に落ち延びてきた、15代将軍・足利義昭の勧めもあり、毛利家は澁田家と全面対決することとなり吉川元春が山陰、隆景が山陽を担当して澁田信長包圍網の一角として戦った。
石山本願寺頭如を救援した。第一次木津川口の戦いでは、小早川水軍・村上水軍を主力とする毛利水軍が、澁田勢の九鬼水軍を破った。1579年の第二木津川口の戦いでは、鉄甲船を配備した九鬼水軍に大敗して、制海権を失った。
- ③ 澁田信長との戦い その二
隆景50歳の時、天正8年(1582)歴史に残る、豊臣秀吉による備前高松城の水攻めの戦いの時、明智光秀による本能寺の裏が起きて信長が死去した時、秀吉の中国大返を黙認し追討しなかつた隆景の行為に秀吉は深く感銘し、秀吉が天下人となった時、「彼奴の主進のみ信用する」とまで言って、絶大な信頼を寄せた。

- ④ 豊臣政権下の隆景
毛利家は、隆景を前面にして秀吉の天下取りに参加させた。初参加は、天正13年(1585)秀吉の和泉・紀州攻めの時である。隆景が豊臣政権の大名となる。
◇隆景35歳・伊予の湯築城(35万石)に入城。 ;天正13年(1585)一旦毛利家当主・輝元に与えられて毛利の分国として、それより輝元から隆景に遣わされる形式を取る。
- ⑤ 隆景55歳・天正15年(1587)筑前・筑後に移封。豊臣政権に編入される。
◇名島城(36万石)を築く。博多の復興、大宰府天満宮本殿築造等に努める。 隆景・名島城主
- ⑥ 隆景は、その後も朝鮮に渡り活躍を果たした。
◇隆景62歳、文禄3年(1594)秀吉の甥・秀秋を養子に迎える。
◇隆景63歳、文禄4年(1595)8月、官位・従三位・権中納言に任じらる。
◇隆景63歳、文禄4年11月、秀秋に家督を譲り、隠居所の三原城に入る。
◇隆景65歳、慶長2年(1597)6月12日、三原城にて死去。

大関秀吉・曰く「日本の西は小早川隆景に任せれば全て安泰である」